

麻疹・風疹に関する疫学情報

東京都健康安全研究センター

○麻疹

麻疹は、麻疹ウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「はしか」とも呼ばれ、毎年春から初夏にかけて多くみられます。小児期に多いといわれていますが、最近では成人での発症もみられ、集団感染事例も報告されています。

【感染経路・感染期間】

空気感染が主たる感染経路ですが、その他に、患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」、及びウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。感染力はきわめて強く、感染した人の 90%以上が発症します。周囲へ感染させる期間は、症状の出現する 1 日前（発疹出現の 3～5 日前）から発疹消失後 4 日くらいまでです。

【潜伏期間・症状】

10～12 日間の潜伏期間の後、38℃程度の発熱及びかぜ症状（咳、鼻水、目の充血等）が 2～4 日続き、その後 39℃以上の高熱とともに発疹が出現します。症状は 7～10 日で回復します。肺炎、脳炎といった重い合併症を発症することもあります。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。

➤ 修飾麻疹とは

幼少時に 1 回のみワクチンを接種しているなど、麻疹に対する免疫が不十分な人が麻疹ウイルスに感染した場合、軽症で典型的な症状が現れない麻疹を発症することがあります。このような麻疹を「修飾麻疹」と呼びます。

具体的には、高熱が出ない、発熱期間が短い、発疹が手足だけで全身には出ないなどです。潜伏期間が長くなり、感染力は典型的な麻疹に比べて弱いといわれていますが、周囲の人への感染源になるので注意が必要です。

○風疹

風疹は、風疹ウイルスを原因とする感染症です。

一般的には「三日はしか」とも呼ばれ、春から初夏にかけて多くみられます。学童から思春期に多いといわれていますが、最近では成人での発生もみられ、集団感染事例も報告されています。また、妊娠初期の女性が感染すると、先天性風疹症候群（CRS）※を起こすこともあります。

※先天性風疹症候群（CRS）

風疹に免疫のない女性が妊娠初期に風疹に感染し、風疹ウイルスが胎児に感染することにより、出生児に先天性の心疾患、難聴、白内障等の障害を起こす病気の総称

【感染経路・感染期間】

患者の咳やくしゃみに含まれるウイルスを吸い込むことによる「飛まつ感染」が主たる感染経路ですが、その他に、ウイルスが付着した手で口や鼻に触れることによる「接触感染」もあります。周囲へ感染させる期間は、発疹の出現する 7 日前から発疹出現後 5 日くらいまでです。感染力は、麻疹や水痘（水ぼうそう）ほどは強くありません。

【潜伏期間・症状】

通常 2～3 週間（平均 16～18 日）の潜伏期間の後、発熱、淡紅色の発しん、リンパ節腫脹が出現します。基本的には予後は良好ですが、関節炎や血小板減少性紫斑病、急性脳炎などの合併症を発症することもあります。ウイルスに感染しても明らかな症状がでることがないまま免疫ができてしまう（不顕性感染）人が 15～30%程度いると言われています。一度感染すると、大部分の人は終生免疫を獲得します。大人が罹患すると、その症状は小児に比べると比較的重いといわれています。

【治療】

特別な治療法はなく、つらい症状を軽減するための処置（対症療法）が行われます。

【予防】

唯一の予防方法はワクチン接種です。妊婦に感染させないためには、本人だけではなくパートナーや周囲の人もワクチン接種することが重要です。

○麻しん・風しん混合ワクチン（MR ワクチン）

定期予防接種対象のワクチンです。2006 年 4 月から 2 回接種になりました（表 1）。決められた期間内に接種すれば公費となります（窓口は市区町村）。

表 1

第 1 期	生後 12 か月以上 24 か月未満
第 2 期	小学校入学前の 1 年間（5 歳以上 7 歳未満）

定期予防接種が 2 回接種となった 2006 年 4 月以前は接種回数や対象が異なっていたため（表 2）、まだ一度も感染したことがない人の場合は、大人でも免疫が「不十分」、または「ない」人もいます。MR ワクチンは大人になってからでも医療機関で接種することができます（多くの場合は全額自己負担ですが、一部の自治体では費用を助成する制度があります）。

表 2 生年月日別風疹含有ワクチンの定期接種の状況

生年月日	1回目	2回目
昭和37年4月2日以降 昭和54年4月1日生まれ	中学生の時に女性のみ風しんワクチン。 学校での集団接種。	
昭和54年4月2日以降 昭和62年10月1日生まれ	中学生の時に男女とも風しんワクチン。 医療機関での個別接種。 接種率が低かったために、平成13年11月7日から平成15年9月30日までならいつでも受けられた。 1歳から6歳までのどこかで1回目のMMRワクチンの人もいる。	
昭和62年10月2日以降 平成2年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチンあるいは 1歳から6歳までに1回目のMMRワクチン	
平成2年4月2日以降 平成7年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチンあるいは 1歳から6歳までに1回目のMMRワクチン	高校3年生相当年齢 (18歳になる年度)で MRワクチン
平成7年4月2日以降 平成12年4月1日生まれ	1歳から7歳半までに1回目の風しんワクチン	中学1年生(13歳になる年度)でMRワクチン
平成12年4月2日以降 平成17年4月1日生まれ	1歳から5歳までに1回目の風しんワクチン	小学校入学前1年間 (6歳になる年度)で MRワクチン
平成17年4月2日生まれ 以降	1歳時にMRワクチン	小学校入学前1年間 (6歳になる年度)で MRワクチン

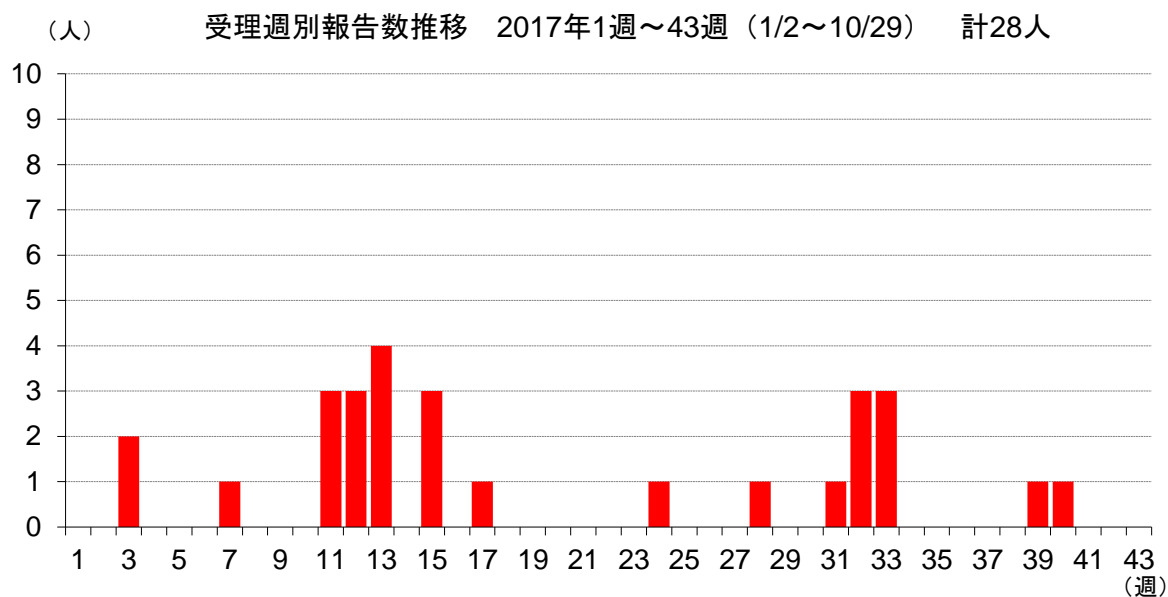
多屋馨子：わが国の風疹の現状と課題. 小児科 53 (9) 1151-1163, 2012

都内における麻しんの発生状況（2017年第1週から43週）

東京都健康安全研究センター

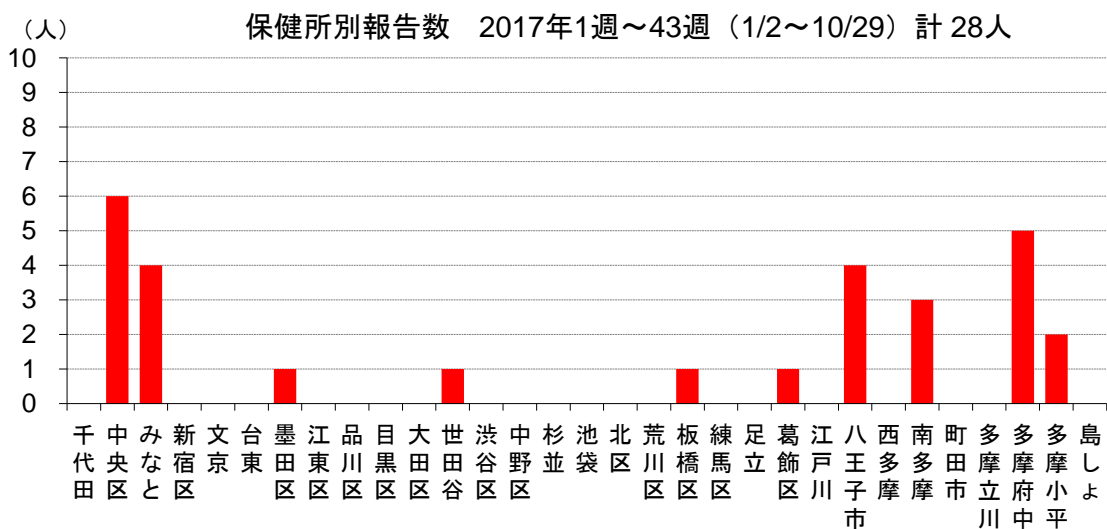
1. 患者報告数の推移

2017年の年間累計報告数は28人であった。



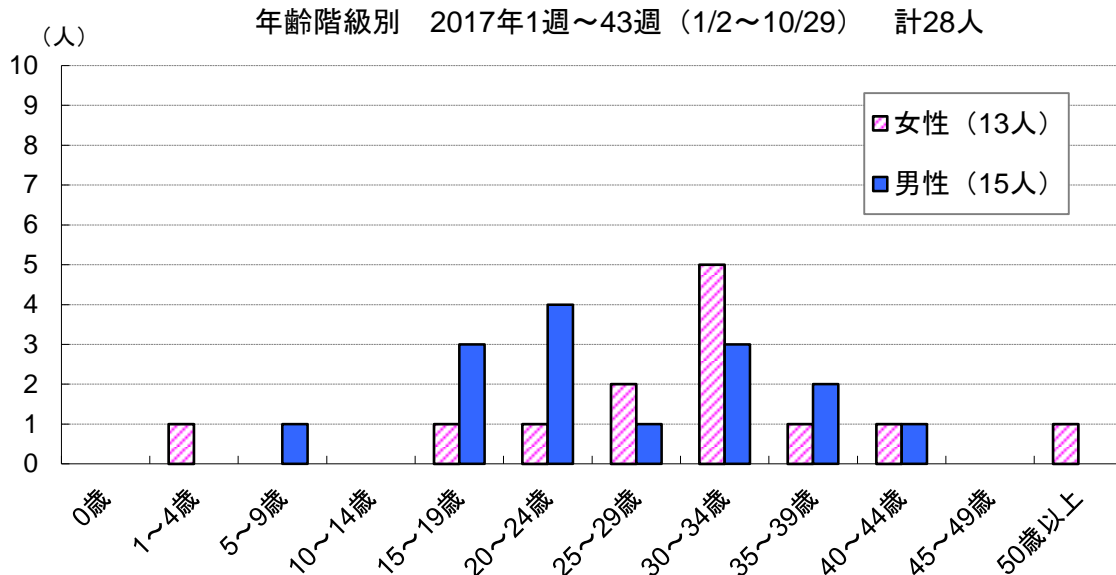
2. 保健所別報告数

31保健所中10保健所から報告があり、報告数は中央区保健所6名、多摩府中保健所5名、みなと保健所、八王子市保健所各4名、南多摩保健所3名、多摩小平保健所2名、墨田区保健所、世田谷区保健所、板橋区保健所、葛飾区保健所各1名だった。



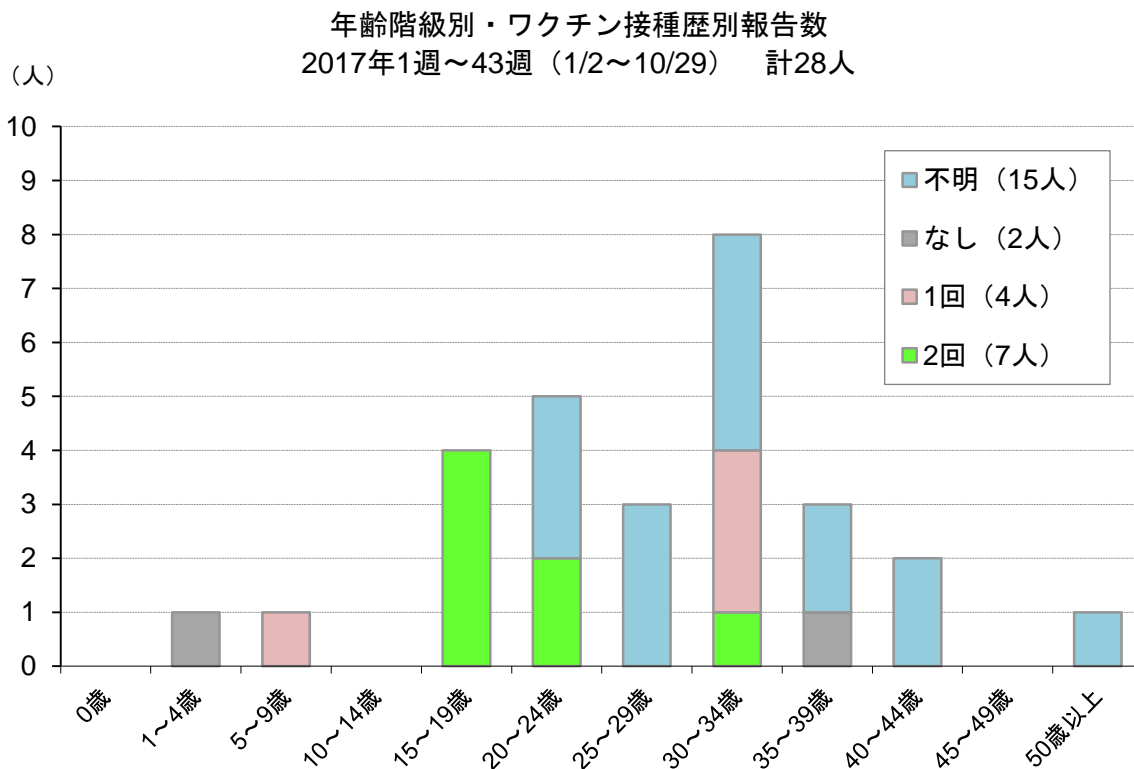
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 15 人、女性 13 人で男性の方が多かった。年齢階級別・性別で見ると、報告数が多いのは 30～34 歳の女性（5 名）、20～24 歳の男性（4 名）であった。



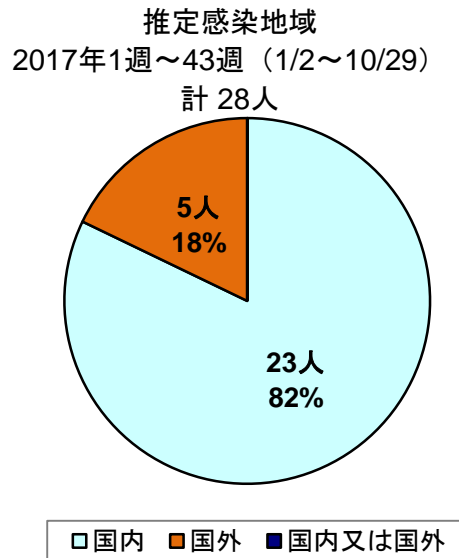
4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

ワクチン接種歴別で見ると、2回接種が 7 人、1回接種が 4 人、接種なしが 2 人、不明が 15 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 61%であった。



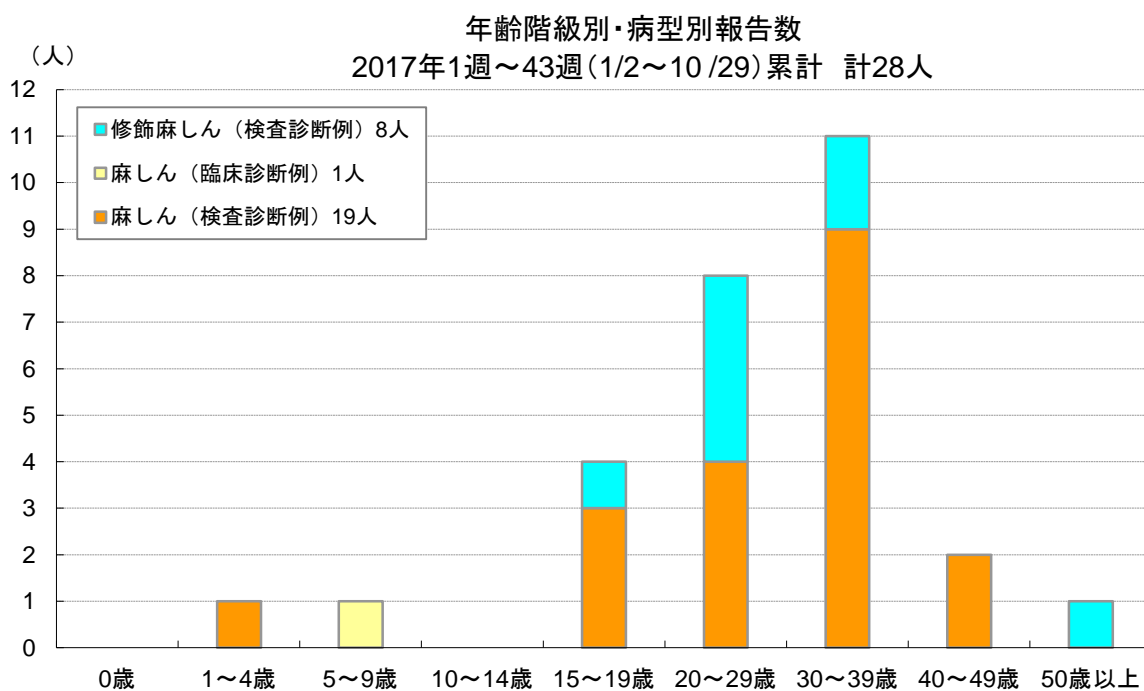
5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が23人(82%)、「国外」が5人(18%)であった。昨年よりも推定感染地「国外」は32%減少した。(推定感染地「国内」は32%増加した。)



6. 年齢階級別・病型別報告数

病型別でみると、麻しん(検査診断例)19人、麻しん(臨床診断例)1人、修飾麻しん(検査診断例)8人と、麻しん(検査診断例)が最も多かった。



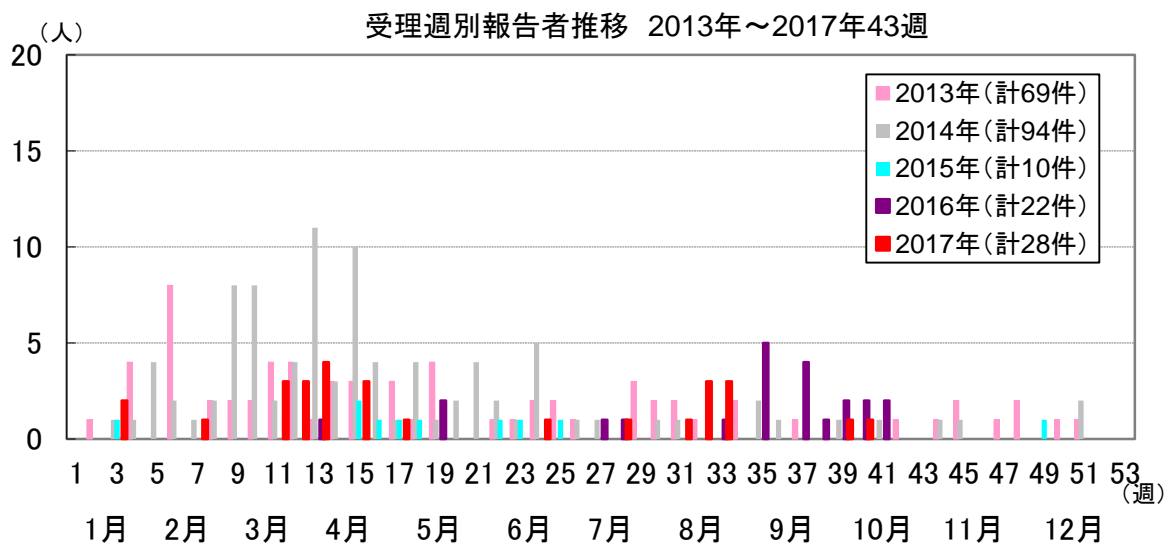
7. 事例一覧

No	診断週	性別	年齢・年齢群	遺伝子型	推定感染地域	予防接種歴
1	3週	女	32歳	D8	国内	1回
2	3週	女	24歳	H1	国外(ミャンマー)	不明
3	7週	男	8歳	不明	国内	1回
4	11週	男	30歳	D8	国外(インドネシア)	不明
5	11週	男	40歳	D8	国外(タイ)	不明
6	11週	女	19歳	D8	国内	2回
7	12週	男	21歳	D8	国内	不明
8	12週	男	18歳	D8	国内	2回
9	12週	男	18歳	D8	国内	2回
10	13週	女	33歳	D8	国内	2回
11	13週	男	38歳	D8	国内	不明
12	13週	男	21歳	D8	国内	2回
13	13週	男	34歳	D8	国内	1回
14	15週	男	19歳	D8	国内	2回
15	15週	男	20歳	D8	国内	不明
16	15週	男	21歳	D8	国内	2回
17	17週	女	40歳	D8	国内	不明
18	24週	女	38歳	不明	国内	不明
19	28週	女	74歳	不明	国内	不明
20	31週	女	33歳	D8	国外(インドネシア)	不明
21	32週	女	33歳	D8	国内	不明
22	32週	男	25歳	D8	国内	不明
23	32週	女	30歳	D8	国内	1回
24	33週	女	25歳	D8	国内	不明
25	33週	男	34歳	D8	国内	不明
26	33週	女	26歳	D8	国内	不明
27	39週	女	2歳	D8	国外(タイ)	無
28	40週	男	37歳	D8	国内	無

<参考>

1. 麻しん患者報告数の推移（2013年～2017年43週）

過去5年間でみると、2017年は3番目に少ない報告数となった。

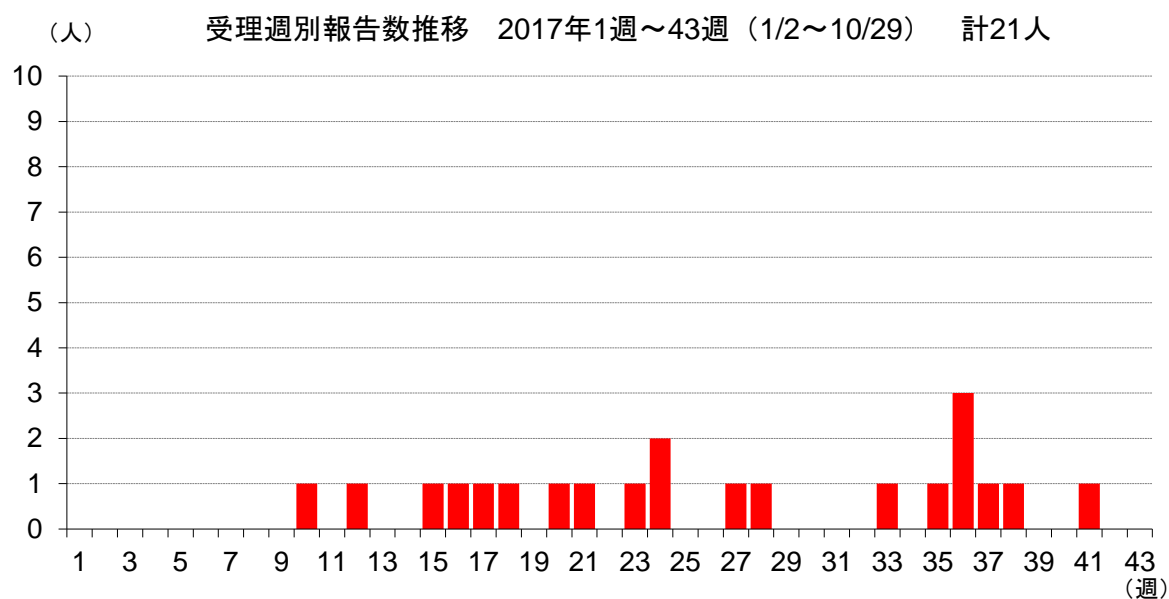


都内における風しんの発生状況（2017年第1週から43週）

東京都健康安全研究センター

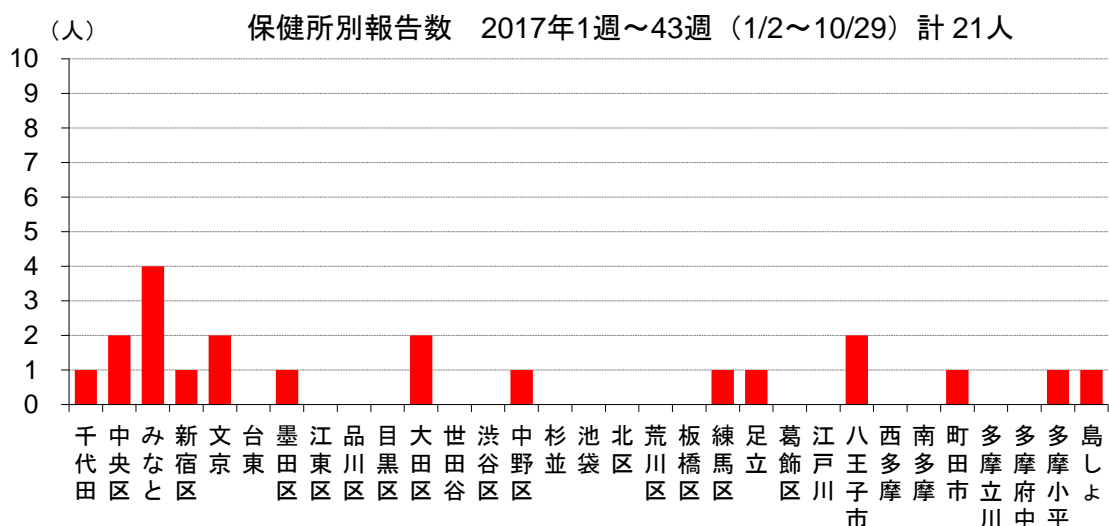
1. 患者報告数の推移

2017年の年間累計報告数は21人であった。特にピークはなく、0～3人の報告が散発的に続いている。



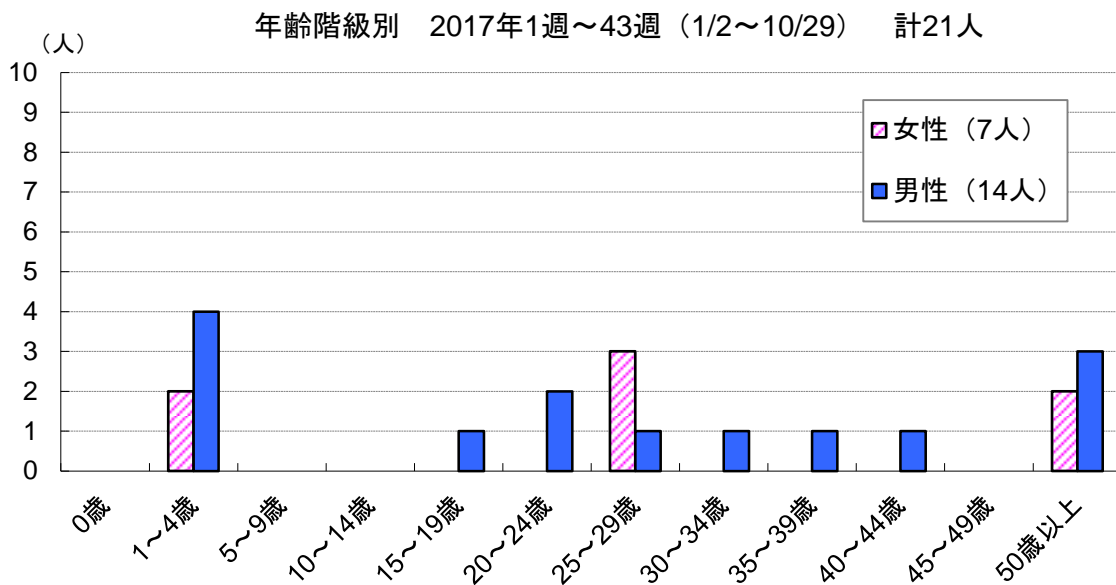
2. 保健所別報告数

31保健所中 14保健所から1人から4人の報告があった。



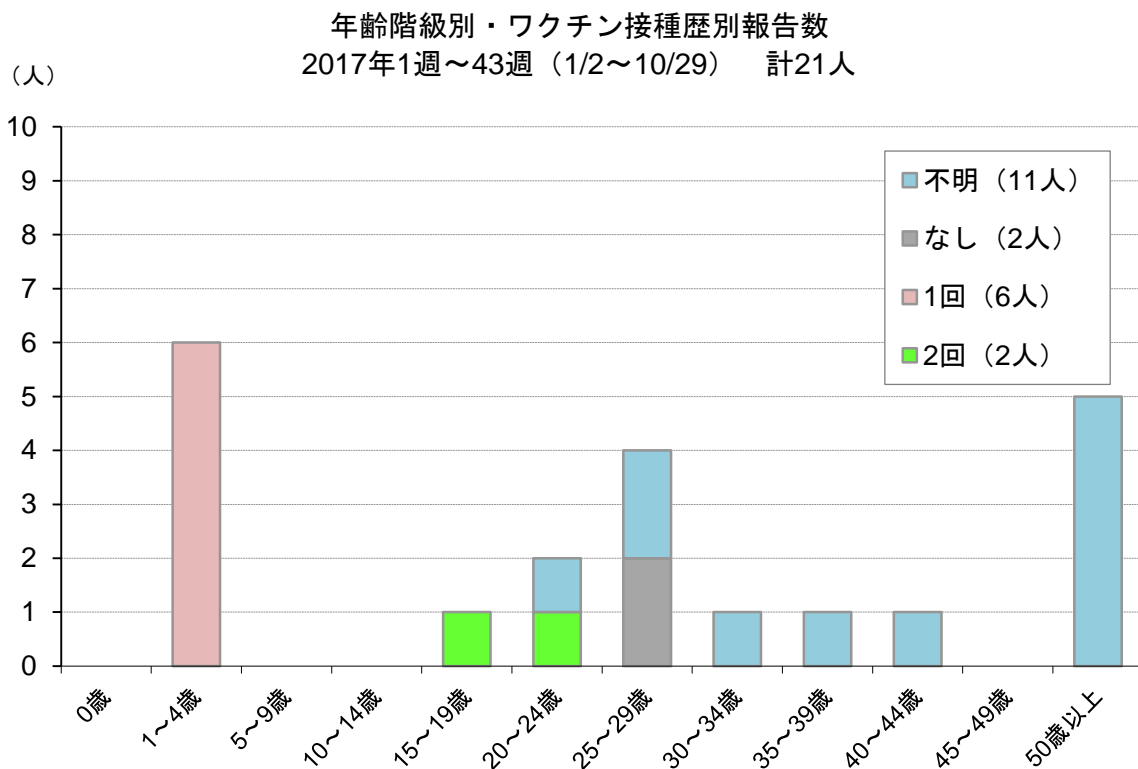
3. 年齢階級別・性別報告数

性別は男性 14 人、女性 7 人と男性の方が多かった。年齢階級別・性別で見ると、報告数が多いのは 1～4 歳の男性（4 人）、25～29 歳の女性、50 歳以上の男性（各 3 人）であった。



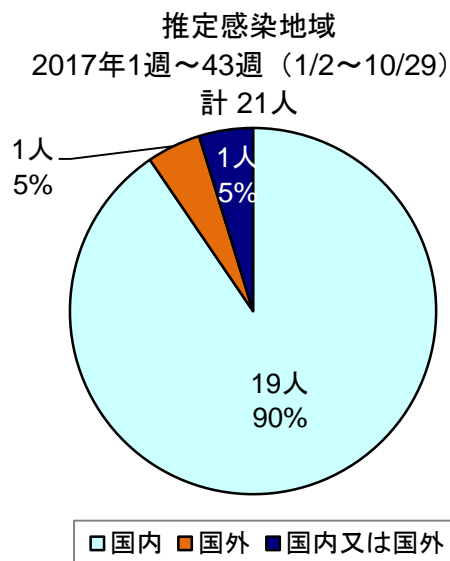
4. 年齢階級別・ワクチン接種歴別報告数

報告された風しん患者をワクチン接種歴別で見ると、2 回接種が 2 人、1 回接種が 6 人、接種なしが 2 人、不明が 11 人であり、接種なしと不明を合わせた割合は約 62%であった。20 歳以上では接種不明が多かった。



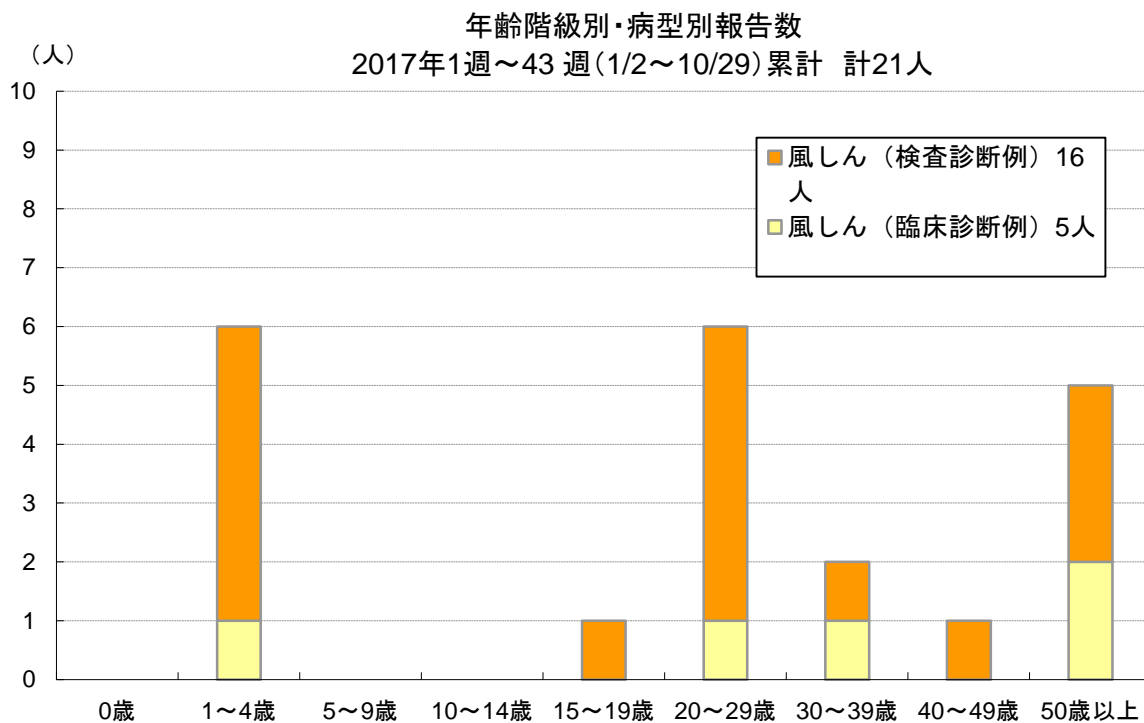
5. 推定感染地域

推定感染地域は「国内」が19例、「国外」と「国内又は国外」がそれぞれ1例であった。



6. 年齢階級別・病型別報告数

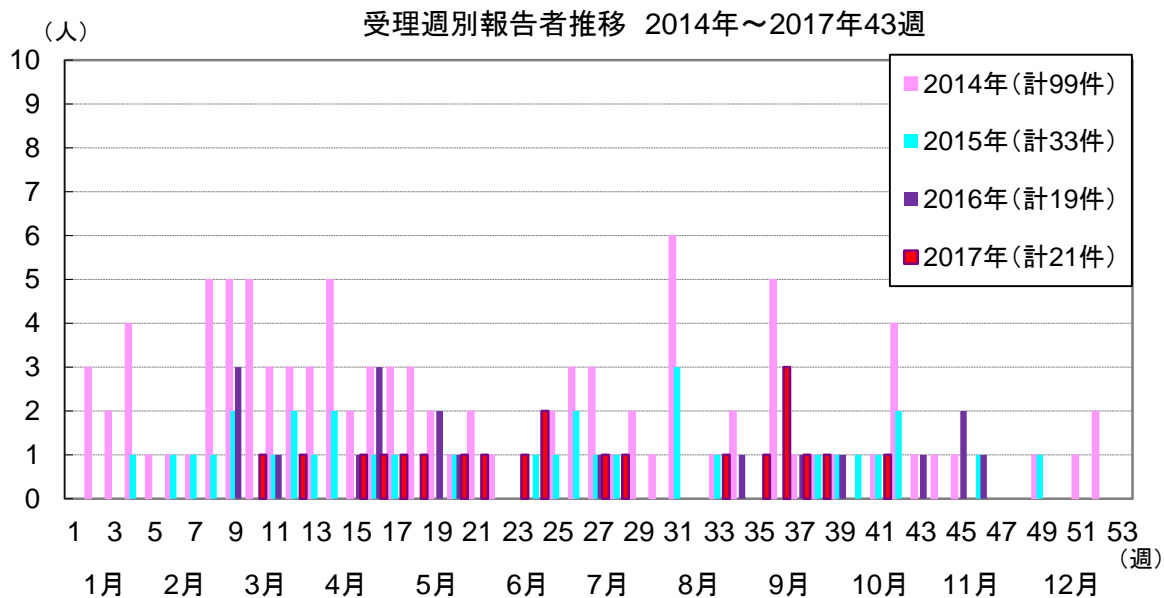
病型別でみると、検査診断例が16人、臨床診断例が5人と検査診断例の方が多かった。



<参考>

1. 風しん患者報告数の推移（2014年～2017年43週）

過去5年間でみると、大流行した2013年以降は減少傾向にある。



2. 先天性風しん症候（CRS）患者報告数

2015年以降、全国的に CRS 患者の報告はない。

東京都健康安全研究センターにおけるPCR検査*実施状況

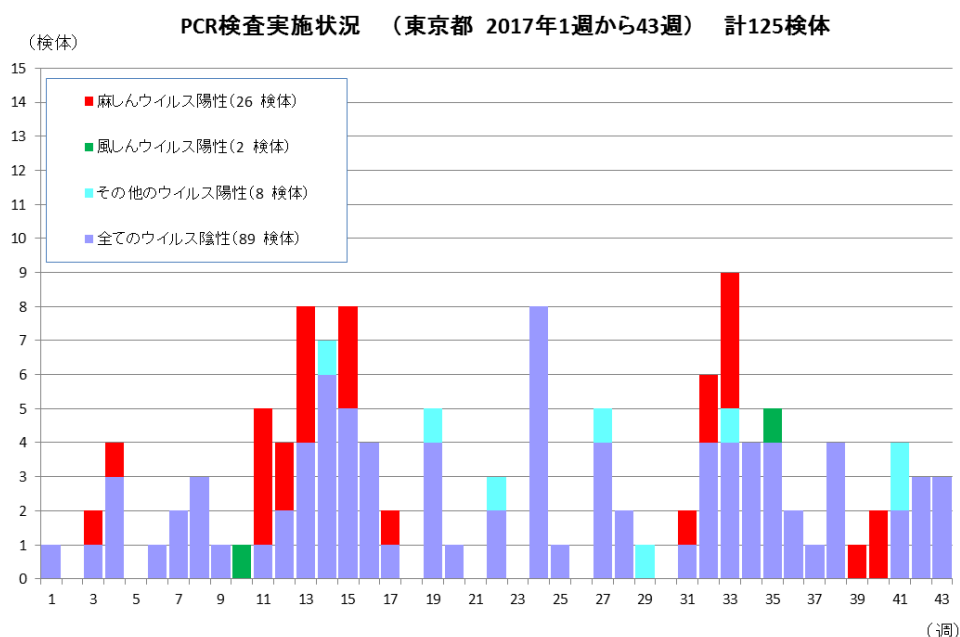
(2017年1週から43週)

東京都健康安全研究センター

東京都では麻しんと診断された患者で協力が得られた場合、当センターに検体を搬入し、麻しんウイルスPCR検査を実施している。陰性だった場合は、風しん及びパルボウイルスB19型のPCR検査を実施し、2歳以下では更にヒトヘルペスウイルスPCR検査も実施することとしている。

2017年1週から43週までで、麻しんと診断された患者115人125検体が当センターに搬入され、PCR検査が実施された。結果は、麻しんウイルス陽性が26検体、風しんウイルス陽性が2検体、その他のウイルス陽性（パルボウイルスB19及びヒトヘルペスウイルス6型）が8検体、陰性が89検体だった。

※PCR検査とは、特殊な酵素を用いて特定の遺伝子配列を増幅することにより標的となる病原体を検出する方法である。検出感度も高く、検出する遺伝子配列を変える事により様々な検査に対応することが出来るため、現在では多くのウイルスの検査に応用されている。



<遺伝子型>

麻しんウイルス (26 検体)

D8 型 : 25 検体 H1 型 : 1 検体

その他のウイルス (8 検体)

ヒトヘルペス 6 型 : 6 検体
パルボウイルス B19 : 2 検体

※風しんウイルスは未実施